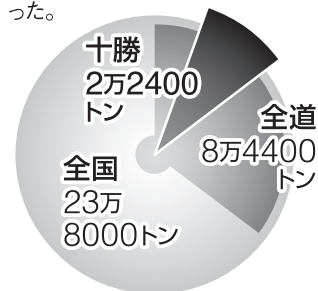


●大豆

音更が全道トップ。10位以内に4市町、60位以内に14市町村が入った。農家の大豆生産意欲の向上を受けて、作付面積が増え、収量もアップした市町村が目立った。



2016年産

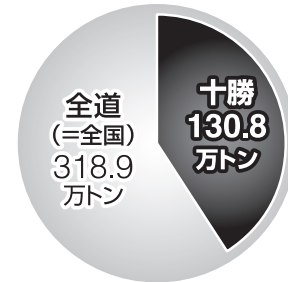
全道
順位

単位:トン

① 音更町	5590
⑥ 芽室町	3210
⑦ 帯広市	3160
⑨ 士幌町	1970
⑰ 幕別町	1400
⑲ 本別町	1350
⑳ 清水町	1220
㉔ 豊頃町	828
㉘ 更別村	625
㉚ 上士幌町	585
㉜ 新得町	514
㉞ 中札内村	494
㉟ 池田町	486
㊱ 浦幌町	480

●ビート

帯広は前年と同じくオホーツク勢の1、2位に次ぐ3位。台風の影響などで道内の圏域別では全道一の座をオホーツクに譲った。



2016年産

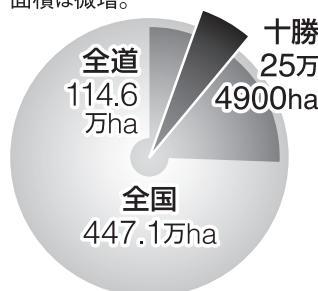
全道
順位

単位:トン

① 網走市	20万6300
③ 帯広市	19万2900
⑤ 音更町	17万2500
⑥ 芽室町	17万2200
⑪ 幕別町	11万4400
⑫ 士幌町	11万3400
⑬ 更別村	10万1500
⑮ 中札内村	6万7500
⑯ 清水町	6万1900
⑰ 鹿追町	6万1100
⑲ 浦幌町	5万2000
㉑ 本別町	5万1100
㉓ 上士幌町	3万8600
㉕ 池田町	3万0000
㉗ 豊頃町	2万2900
㉙ 大樹町	2万2700
㉛ 足寄町	1万5800
㉝ 新得町	9250
㉟ 広尾町	6320

●耕地面積

前年と順位、面積はほぼ変わらず。帯広と近郊3町が上位。道内4位の音更など帯広、幕別、芽室が10位以内。鹿追の増加で十勝全体では面積は微増。



2016年

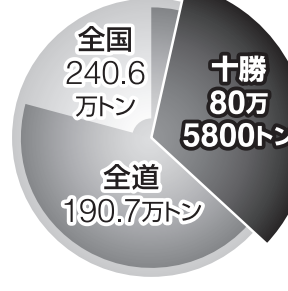
全道順位

単位:ha

① 別海町	6万3500
④ 音更町	2万4300
⑥ 帯広市	2万3000
⑦ 幕別町	2万2500
⑧ 芽室町	2万1400
⑪ 士幌町	1万6000
⑫ 清水町	1万4900
⑮ 大樹町	1万4200
⑲ 足寄町	1万3400
㉓ 鹿追町	1万2200
㉔ 本別町	1万2000
㉕ 更別村	1万1500
㉗ 豊頃町	1万1500
㉙ 浦幌町	1万1300
㉚ 上士幌町	1万1200
㉜ 池田町	9520
㉞ 中札内村	7140

●ジャガイモ

芽室が前年の3位から2位に、前年1位だった帯広は3位に後退した。上位50位に管内から16市町村が入る。※データは15年産



2015年産

全道順位

単位:トン

① 網走市	12万0500
② 芽室町	11万8400
③ 帯広市	11万6600
⑧ 士幌町	8万3800
⑨ 幕別町	8万0500
⑩ 更別村	7万5500
⑪ 音更町	7万1600
⑭ 鹿追町	4万0800
⑮ 鹿追町	4万0000
⑰ 豊頃町	3万5500
㉑ 上士幌町	3万1700
㉒ 清水町	3万1200
㉓ 浦幌町	3万0200
㉔ 本別町	2万1100
㉕ 池田町	9810
㉗ 大樹町	9160
㉙ 新得町	6010

農業ガイド1117号

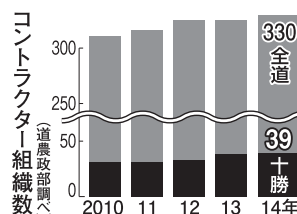
2017年7月29日

コントラクター横ばい 需要増も十勝1組織増のみ

道農政部は、農作業を支援する道内コントラクターの組織数（2014年3月末現在）をまとめた。管内は前年より1増の39組織。酪農・畜産などで大規模経営が進む中、飼料用作物の収穫などを外部委託するコントラクターへのニーズは増している。一方、季節労働になることが多く、人材確保や経営面から組織数は横ばい傾向が続いている。



コントラクターにより行われている牧草の収穫作業
(鹿追町)



道内の市町村に調査し、組織の概要や運営状況などを調べた。全道の組織数は前年比5増の330組織。振興局別でみると、米作地帯の上川が前年と同じの72組織で最多。空知が4増の64組織、酪農が盛んな根室が2増の54組織で続いた。十勝は4番目だった。

全道の組織形態は、任意組織の営農集団などが104、株式会社が51、特例有限会社が49、農協営が20組織の順。

受託する作業内容は、収穫作業が212、は種・移植などの栽培期間作業が171、整地など栽培前作業は167組織